



アザレアネット通信

アザレアネットホームページ <http://www.azaleanet.info/>

ご挨拶

「くるめ診療情報ネットワーク（愛称：アザレアネット）」も設立から11年が経過しました。

参加医療機関・患者数もそれぞれ右表のとおり増えており、今後、とびうめネットとの連携による多職種連携を含めた新たな取り組みも進めてまいります。

医療の世界においても、AIやICTの活用が進められています。私どももアザレアネットの充実を通じて、地域医療に貢献したいと考えておりますので、みなさま方のご理解・ご協力をお願いいたします。

くるめ診療情報ネットワーク協議会 会長 植田 省吾



第7回 くるめ診療情報ネットワーク講習会を開催



令和5年7月19日に、第7回となる講習会を開催しました。

アザレアネット協議会の荒木運営委員から、

① アザレアネットに参加していない方向けに利用方法の紹介

② アザレアネットの新たな機能の紹介

などのご講演をいただきました。

第8回の講習会にはさらに多くの皆様からご参加いただけるよう、準備を進めてまいります。

（講演会のスライドを一部抜粋）

① 参加していない方向けに利用方法の紹介

クリニックでの ID-Link 活用法

- ① 開示病院に検査依頼した患者の情報を見る
- ② 開示病院に紹介した患者の経過確認
- ③ 開示病院から逆紹介された患者の情報を見る
- ④ 初診患者の情報を開示病院から得る
- ⑤ 以前開示病院を受診していた患者の情報を見る
- ⑥ 開示病院と併診中の患者の情報を見る



② 新たな機能の紹介

ID-Link の Participant (チーム参加)機能

- あらかじめ、患者毎の治療・ケアチームを作成して、参加者とメールアドレスを登録しておく。
- ノート記載やファイルアップロードが行われると、参加者にメールが送信される。
- メールに記載された URL アドレスをクリックすると、対象患者のカレンダー表示にアクセスできる。



2

アザレアネットが双方向開示になりました

今までは開示施設の情報を閲覧施設が閲覧する「一方向開示」でしたが、多職種連携での活用を進めるために、閲覧施設も情報を開示できる「双方向開示」が使えるようになりました。

開示できる情報は今後追加していく予定です。

3

介護保険認定の主治医意見書作成・提出のトライアルを開始

久留米市介護保険課がアザレアネットに参加しましたので、介護保険認定に必要な主治医意見書をアザレアネットを介して、市にデータで送信することができるようになりました。

郵送よりも迅速に提出できるようになります。

現在、マニュアルを整備しながらトライアルを行っておりますので、本格運用する際は、改めてお知らせいたします。

4

患者さんへの口頭同意トライアルを開始

先日行ったアンケート調査でも同意書取得の簡素化が望まれていましたが、国の規制緩和により、以下の条件の下に、口頭による同意も認められることになりました。

- ① 地域協議会のルールとして定めること（済※）
- ② 診療情報等の提供元となる医療機関において、あらかじめ、院内掲示等により診療情報等の利用目的を明示し、患者から留保の意思表示がないこと
- ③ 受診時に、他の参加医療機関から診療情報等を取得することについて、患者から口頭等で同意を得た際に、同意を得た旨を記録すること

（※）令和5年理事会において、くるめ診療情報ネットワーク運用規則上に口頭による同意が可能であることを盛り込む改正を承認いただいております。

まず聖マリア病院でトライアルを開始し、課題解決の後、他の開示病院への展開を検討いたします。

5

アザレアネットにケアマネージャーも参加できます

令和4年5月に開催された理事会において、アザレアネットにおける多職種連携を目的として、ケアマネージャーが参加できるようになっています。

連携を希望される場合は、事務局にご相談ください。

なお、規約・運用規則等はホームページ (<http://www.azaleanet.info/>) に掲載しております。

年会費は、3千円です（医師会会員でない医療機関（施設）の場合に限る）。



ツツジちゃん

令和4年5月に開催された理事会において、アザレアネットのマスコットキャラクター「ツツジちゃん」が誕生しました！

「ツツジちゃん」には、さらにアザレアネットの普及が進むよう、広報活動をしていただきますので、みなさまどうぞよろしくお願いいたします！

全国のID-Link（アザレアネットが使用しているシステム名）を活用する地域が先進事例などを発表する標記の研究会が佐賀市で開催されました。

（講演内容）

一般演題で注目されたのは、名寄市からの発表でした。

名寄市では、地域包括ケアシステムの情報インフラとしてID-Linkを採用し、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問看護／リハビリ事業所、特養、老健がID-Link参照端末を設置し、情報共有により、各施設での業務改善や市立病院での平均在院日数短縮などに繋げていました。

特別講演では、日本医師会の長島公之理事が全国医療情報プラットフォームとの棲み分けについて講演されました。

全国医療情報プラットフォームは地域情報インフラの1階部分にあたり、処方歴・検査歴と2文書6情報などに限定されていることから災害・救急での利用が主である。

地域医療連携ネットワークは2階部分にあたり、医師記録や画像情報を有することから、より密な連携の基盤となるべきものであり、どのような情報を共有し、運用していくかは地域毎のニーズに合わせて工夫すべき、との趣旨でした。

また、ID-Linkの開発者であるSEC社伊藤氏からは今後の開発計画が説明されました。

- （1）患者がスマホ上で携帯電話番号をキーにして登録し、通院・利用している医療施設・介護施設の診察券を検索し、各施設でのPatient IDを登録することで、同意書取得なしに、医療機関での閲覧が可能となる「診察券アプリ」。
- （2）マイナポータルと同じように、患者がID-Linkで開示されている情報を閲覧出来る画面の開発（患者に開示する情報の設定は開示施設が設定）。
- （3）全国医療情報プラットフォームデータをID-Linkの画面上に表示する仕組み（クリニックの処方歴や検査結果など、今までID-Linkで開示出来ていなかったコンテンツも閲覧可能）。

ID-Linkが飛躍的に機能強化されそうです！

利用開始時のパソコンの初期設定や開始後のデジタル証明書の更新サポートは、事務局の費用負担により業者（久留米・鳥栖広域情報株式会社）を派遣します。

また、利用開始後に操作方法が分からなくなった場合やデジタル証明書の紛失等もサポートしていますので、お気軽に事務局までご相談ください。

令和5年5月23日開催の理事会で承認された事業計画は以下のとおりです。

- (1) 協議会運営：理事会を1回、運営委員会を4回開催。
- (2) 普及促進事業：体験講習会の実施、ホームページの随時更新及びアザレアネット通信の発行。
- (3) 調査研究事業：講習会・セミナー参加による情報収集の実施。
- (4) サポート業務：新規閲覧施設への初期設定等業務を随時実施。



	担当課	電話 (0942)	FAX (0942)	備考
聖マリア病院	医療連携患者支援部	34 - 3453		聖マリアヘルスケアセンター含む
新古賀病院	地域医療連携室	38 - 2292	38 - 2294	古賀病院21、新古賀クリニックを含む
嶋田病院	地域医療連携室	72 - 2253	73 - 3313	
久留米大学病院	医療連携センター	31 - 7637	31 - 7716	
医療センター	連携室	22 - 6582	22 - 6583	



発行者：くるめ診療情報ネットワーク（アザレアネット）協議会事務局

久留米市櫛原町45 久留米医師会事務局内

TEL：0942-34-4163 FAX：0942-31-1156

<http://www.azaleanet.info/>

